平成18年12月15日(金)AM 3:17　長女　誕生　2820g

初産にも関わらず、私が助産院での出産を強く希望したのは、助産院の「待つお産」「暮らしの中のあたり前にあるお産」という考え方、「土に根ざして暮らすこと」を大切にしたいという自分の想いにしっくりきたからだと思います。

妊娠当初、病院で診てもらっていたので、助産院での出産を希望していることを、いつ伝えたら良いかわからず、6ヶ月まできてしまいました。やっとそのことを病院の先生に伝えたところ、「それはあなたの自由ですから」と言いつつも、あまりいい顔をされませんでした。そして、助産院での出産には危険が伴うということをしきりに話されました。そう言われれば言われる程、「何が本当の安全なのか」と思い、ますます「何が何でも助産院で産まなくちゃ!」とやっきになっている自分がいました。それは、頭でっかちで意固地な自分でもありました。でも康乃先生と話すうちに、かたくなな心もやわらかくなり、もしも最後の最後で病院で産まなければならなくなったとしても、それは赤ちゃんがそうしたかったのかもしれない…と思えるようになりました。

それから、低置胎盤気味だったり、へその緒がきっく巻いているようだったりと、助産院で産むことに「待った」がかけられそうになりましたが、週数が進むうちにいい方向へ向かい、後期検診でも何もひっかかることなく、無事助産院で産めることになりました。

予定日より15日早い、12月12日の朝、トイレに行ったら"おしるし"がありました。しかしおりものが少し水っぽい気がして、破水ではないかと心配になり康乃先生に電話したところ、羊水かどうかすぐわかるから病院で診てもらったらいいわよと言って下さいました。このごにおよんで病院分娩になったら嫌だな…と不安になりましたが、幸い羊水ではありませんでした。(ホ〜ッ)不規則にきていた生理痛のような痛みが、10分間隔の陣痛になったのが、14日の午後でした。その日の午後7時に助産院へ。「今晩中には産まれないかもねえ」と言われつつ

康乃先生におまじない(?!)をしてもらいました。そのおかげで夜中に陣痛が波のように押しよせ順調に頭が見えるところまで進みました。
それからが長かった…(らしい)
「痛い」と口にしてしまうと、くじけそうな気がして、痛みがくる度に息を吐きながら「花～、花～、がんばれ～」と心の中で唱えていました。いきむのが下手な私は、最後の最後で康乃先生に手伝ってもらいましたが、無事にかわいい女の子を産むことができました。産まれた瞬間は「はぁ終わった…」と力が抜けて、半ば意識もうろうとしていました。血を見るのが苦手なだんなも、我が子の誕生には目をそらすことなく、全てを受け入れられたそうです。私もそばにいてもらえて、どれほど心強かったことか。
本当に、無事に産まれてきてくれて良かった。一人ぼっちでがんばって出てきた我が子を頼もしくまた愛しく感じます。
少し前までは、お腹の中にいたのに、今では傍らでスヤスヤ眠っている。とても不思議な気分です。でもすごく幸せ♡かわいいかわいいかわいい!
康乃先生、チヨさんには、これからもがんばっていただいて、二人目、三人目(…四人目?!)まで、お世話になりたいと思っています。
バランスのとれたボリューム満点のおいしいごはん、やさしい言葉かけや手当ては、心も体も元気にしてくれました。

本当にありがとうございました。

只見町